

東京医科歯科大学医学部附属病院 「みんなの健康を育む病院だより」



オアシス

奨学寄附金のお願い

東京医科歯科大学ではさまざまな病気に対する治療法や治療薬の開発に結び付く研究や、患者さんに信頼される医療人となるための教育を行っています。奨学寄附金は東京医科歯科大学が行っている人材育成や研究活動に対してのご寄附を企業や個人の皆様から募っております。特定の診療科や医師を指定して寄附することも可能で、金額も決まっておりません。寄附金は税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

■ 問い合わせ先

研究・産学連携推進機構事務部 連携総務係
TEL：03-5803-4012
FAX：03-5803-0179



セカンドオピニオン外来とは

セカンドオピニオン外来は、当院以外の医療機関に通院している患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にしていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申込みください。通常の外来受診とは異なりますのでご注意ください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、診療情報提供書や資料を用意いたしますので、担当医にお申し出ください。

■ 問い合わせ先

セカンドオピニオン外来
TEL：03-5803-4568
FAX：03-5803-0119

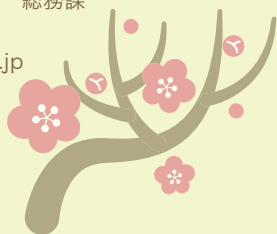


梅いち輪募金にご協力ください

梅いち輪募金（東京医科歯科大学医学部附属病院支援基金）は、患者さんから寄せられるサービス改善のご要望を、できることから実現するために活用させていただき基金です。一口1000円からお申込みいただけます。詳しいことは下記までご連絡ください。

■ 問い合わせ先

東京医科歯科大学医学部附属病院 総務課
TEL：03-5803-5097
メール：syomu2.adm@tmd.ac.jp



東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために、国際交流事業、学生育成奨学事業などの「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円で本学で用意した振込用紙にて振り込むことができます。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

■ 問い合わせ先

東京医科歯科大学募金室
TEL：03-5803-5009
E-MAIL：kikin.adm@tmd.ac.jp

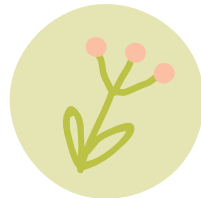


献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

■ 問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会事務局
TEL：03-5803-5147



がんセミナー

●役に立つがんの基礎講座

患者さんご家族向けに『がんのきほん』と最新の情報をわかりやすくお話いたします。

4月11日	がんは遺伝子の異常で起こる
6月13日	がんの基礎的な診断

※どなたでもご参加できます

講師：湯浅保仁（東京医科歯科大学名誉教授）

●がんレクチャー

『がん』に関する様々な情報を、がん医療に携わる専門スタッフがお話しします。

3月14日	がんと社会制度
5月9日	がんと栄養
7月11日	緩和ケア

※がん患者さん・ご家族・がんに関心がある人対象

時間 13:30～14:30（13:15開場）

会場 B棟5階 症例検討室

参加費無料／事前申込不要

問合せ先：がん相談支援センター（腫瘍センター内）

TEL：03-5803-4008（直）



INDEX

- 2 病院長のご挨拶
- 3 専門外来
精神科 国際医療外来／整形外科 上肢外科
- 4 長寿・健康人生推進センターの歯科診療
- 5 糖尿病市民公開講座の報告レポート
- 6 新任科（部）長・センター長のご紹介
- 7 梅いち輪募金の活用／患者さんアンケートについて／ホームページをリニューアル
- 8 梅いち輪募金・がんレクチャー・奨学寄附金・基金・セカンドオピニオン外来・献体



2016 年を振り返って

東京医科歯科大学医学部附属病院 病院長
東京医科歯科大学 大学院 医歯学総合研究科 整形外科学分野 教授

大川 淳

Atsushi Okawa

2016年4月、病院長に着任してから多くの課題に取り組み続け、目が回るような1年でしたが、大きな事故を起こすことなく過ごせたことは、何よりと思っています。一方で、病棟や外来エスカレーターの工事をはじめ、病院施設・設備の老朽化やその対応のため、ご利用いただいている皆様には大きなご不自由をおかけいたしており、申し訳なく感じておりますが、さらに利用しやすい病院を目指して工事を進めておりますので、ご理解の程、お願いいたします。

今後の目標について

大学病院として求められている難病治療や高度急性期治療をさらに充実させたいと考え、病棟における診療科配置の再編を計画しています。春には「緩和ケア病棟」もオープンし、終末期医療だけでなく、疼痛コントロールやリハビリテーションにも力を注ぎたいと考えています。また大学病院は医療従事者を教育する場でもあり、医学生や若手医療従事者の育成と同時に、かつ高度な先進医療を安全に提供するために、全病院体制で取り組みたいと思います。さらに集中治療室（ICU）や高度治療室（HCU）などの施設を充実させ、医師数を増加することで、重篤度の高い患者さんを24時間体制で管理し、効果的な治療を行う体制をさらに充実させております。

病院の機能分担についてご理解ください

超高齢社会を迎えて、医療界全体で病院の機能分担が進められています。そのなかで大学病院は高度急性期医療を担当することになっており、外来受診には紹介状が必須となり、また入院医療は急性期のできるだけ短期間にして、その後は近くの医療機関に逆に紹介することになりました。こうした医療機関ごとの機能分担にご理解、ご協力を賜りたく思います。



専門外来のご紹介

このコーナーでは、当院の専門外来について、ご紹介します。
今回は精神科の国際医療外来と、整形外科の四肢外来です。

精神科 国際医療外来



Q 国際医療外来とはどんな疾患を取り扱う専門外来ですか？

A 気分障害・不安障害・統合失調症を始めとした精神疾患を持つ外国人に対し、外国語（現時点では英語のみ）で診察を行う精神科外来です。

Q どのようにすれば受診できますか？

A 精神科外来（03-5803-5673）に電話して受診希望をお伝えください。

Q いつから受診できますか？

A 2016年11月より専門外来をスタートさせました。米国精神科専門医の資格を持つ医師が対応しますので、ご相談ください。

Q 今後はどのように外来を発展させますか？

A 現時点では外来診療のみで、入院治療には対応していませんが、今後の需要と当科の準備状況に応じて検討します。同時に、病院全体でも外国人の受診体制を整備すべく働きかけていきたいと考えています。

お話を聞いた先生 精神科 上里彰仁先生

精神科の専門外来一覧

◆歯科連携外来

口腔内の異常感、疼痛、舌痛症、味覚障害などについて、患者さんの苦痛を少しでも和らげるために、本学の特徴を生かして、精神科医と歯科医師が連携し、診断・治療を行う外来です。脳機能画像を用いた解析・診断で、患者さん一人一人に最適な治療を提供します。

◆周産期メンタルヘルス外来

母親をはじめとする養育者のメンタルヘルスは、子どもの成長や発達に長期にわたり影響します。妊娠、出産、産後などの周産期に、患者さんや家族が抱える様々な心の病態に対して、精神科医が中心となり、産婦人科医や看護師と連携しながら、最適なケアを行う専門外来です。

◆躁・うつ再発予防外来

双極性障害は、周期的に躁状態とうつ状態を繰り返す病気です。再発回数が多いと、さらに再発しやすくなり、予後が悪くなるため、再発予防が重要です。この専門外来では、双極性障害と診断された患者さんを対象に、心理教育プログラムを提供し、再発予防に努めます。

◆快眠センター（睡眠外来）

睡眠障害のうち、不眠や過眠・むずむず脚症候群などに対して精神科的治療を行います。睡眠時無呼吸症候群などの睡眠関連呼吸障害は、連携する呼吸器内科の快眠センター（睡眠時無呼吸外来）が担当します。



整形外科 四肢外来

Q どんな外来ですか？

A 四肢外来は、肩から指先までの四肢における痛みやしびれ、運動障害などをきたす疾患や外傷を治療対象とします。病因や病態を正確に診断し、手術治療だけでなく、リハビリや装具療法など一人一人に合った最適な治療法を患者さんとともに考え、提供しています。



肩・肘・手首の疾患・外傷の一部では、低侵襲な関節鏡手術を導入し、早期社会・スポーツ復帰に貢献しています。

Q 当院の四肢外来の特色は？

A 高齢化社会を反映して増加傾向にある四肢の変形性関節症に対する人工関節や関節形成手術、絞扼性神経障害に対する機能再建術など、専門的な技量を要する手術にも対応しており、日本手外科学会認定基幹研修施設に指定されています。

Q 何曜日に受診できますか？

A 四肢外来は、毎週月、水、金曜日に専門外来を開設しており、肩、肘、手における外傷、変性疾患、炎症性疾患を対象に診療を行っています。対象疾患は多岐にわたります。まずはご相談ください。

お話を聞いた先生 整形外科 藤田浩二先生

整形外科の専門外来一覧

◆脊椎外来

くびから腰までの背骨の病気に對して、患者さんごとに生活環境やご希望などを十分に相談のうえ、手術療法のみならず、最適な治療法を提供します。

◆膝関節外来

スポーツ時に起こりやすい前十字靭帯損傷や、高齢者に多い変形性膝関節症・関節リウマチなど、膝関節の様々な症状を対象にしています。

◆股関節外来

変形性股関節症や寛骨臼（臼蓋）形成不全症、大腿骨頭壊死症などの成人疾患から、発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）やベルテス病、大腿骨頭すべり症といった小児疾患まで、あらゆる年代の股関節疾患を対象としています。

◆腫瘍外来

整形外科で扱う腫瘍は非上皮性組織から発生する骨軟部腫瘍といえます。また、骨は癌が転移しやすい臓器のため、専門外来を設置して骨転移の診療を専門に行っています。

◆リハビリテーション外来

当院での専門性の高い整形外科手術や、重篤な疾患・難治疾患に対する積極的な治療に対し、超急性期からリハビリテーションを導入し、早期回復を図っています。

◆小児整形外科

新生児から乳幼児期、学童期、思春期までを対象とし、四肢・体幹に生じた疾患を治療します。

長寿・健康人生 推進センターの 歯科診療について

長寿・健康人生推進センターでは、個人が持つ病気になる要因を遺伝子解析などで予測して可能な限り回避するという「予防医療」と、早期に疾患を発見して治療するという「早期発見・早期治療」を実現し、皆様の長寿と健康維持に貢献するために、医師、歯科医師、研究者などが一丸となって新しい予防医学を実践します。その1つとしてセンターが提供している歯科領域の診療内容について、歯科医師の原田直子先生に伺いました。



Q 長寿・健康人生推進センターの歯科診察の特徴は？

A レントゲン室を備えた個室の歯科診察スペースにて先端的健診の歯科ドックを行っています。

歯科ドックにおいては、基本的なプログラムでパノラマエックス線撮影、むし歯・口腔粘膜の診査、顎関節診査、歯周組織検査、口腔衛生状態のチェックを行うほか、オプションメニューとして、歯磨き指導や歯垢・歯石除去、唾液による歯周病細菌検査や義歯装着者の咀嚼機能検査などをご用意しています。

また、先端的健診の歯科ドックや睡眠検診で歯科の治療が必要となった場合には、歯学部附属病院の適切な診療科をスムーズに受診いただけるよう手配を致します。

Q 健康長寿と歯の健康の関係は？

A 歯を失う原因の多くは歯周病とむし歯です。日本人の40歳以上の歯周病罹患率は80%以上といわれますが、歯周病は歯を失う最大の原因であると同時に、全身の健康にも大きなリスク因子となっており、早産・低体重児出産への影響や、糖尿病をはじめとする全身疾患との関連性について明らかになりつつあります。

多くの歯が残っていて、きちんと噛み合うことができると、美味しく楽しく健全な食生活を送ることができるだけでなく、頭の位置も固定され、腰の位置も安定することで体のバランスが良くなるため、優れた運動能力を発揮できたり、ケガや転倒を防いだりすることができます。そのため、歯と口腔の健康を保つことは、生活習慣病の予防、改善、生活の質の向上にも大きく寄与し、健康長寿につながります。



Q 受診方法は？

A まず長寿・健康人生推進センター受付までお電話（03-5803-4194）、あるいはメール（app.pmha@tmd.ac.jp）にてご連絡下さい。当センターでは、全身の総合的な健康診断である「基本プログラム」の一部としての歯科検診、あるいは単独での歯科ドックを行っています。虫歯などに対する歯科治療が必要な場合には、歯学部附属病院にご紹介致します。

Q 費用や詳細について資料がありますか？

A センターで提供する医療サービスはすべて自由診療とさせていただきます。パンフレットは病院の総合案内に準備しております。ホームページは、検索エンジンで「長寿・健康人生推進センター」か、URL（<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/chouju>）を入力してください。



糖尿病セミナー

糖尿病について学ぼう！ 知っている？ 糖尿病にかかわる病気 ～市民公開講座を開催しました～

糖尿病・内分泌・代謝内科では、『知っている？ 糖尿病に関わる病気』と題する市民公開講座を2016年10月に開催しました。

糖尿病の新しい知識に興味津々

第5回目となる、糖尿病・内分泌・代謝内科が中心となっており、市民公開講座は、糖尿病に関する最新の情報を、当院の医師やスタッフが著名人とともにわかりやすく伝えることで、好評を博しております。

今回も、約211名の参加者が集まり、そのうち3分の1は、糖尿病患者またはその家族ではない一般の方でした。講演中は熱心に聞き入ったりメモを取ったりと、集中して聞いて下さる方が多く、質疑応答でも質問が多く出ていました。

講演会場の外では、血圧や血糖測定ができるコーナー、インスリンについての情報提供コーナーも設置して、講演前と休憩中は参加者の列が絶えませんでした。

鳥越俊太郎さんの健康法に納得

特別ゲストの講師には、ジャーナリストの鳥越俊太郎さんが参加。鳥越さんからは、ご自身の闘病に関するお話があり、それを元に築き上げた、鳥越さんの健康法について笑いと感動を交えて説明してくださり、最も評判の高い講演となりました。

高齢の糖尿病患者さんへの注意

老年病内科の下門顕太郎先生は、「ここに注意！ 高齢者の糖尿病」というテーマで、2016年からスタートした高齢者の新しい治療目標について説明しました。新しい治療目標が高齢者限定で設定された背景には、高齢者は低血糖を起こしやすく、低血糖を予防しながら治療する必要があることを指摘され、参加者が熱心に聞き入っていました。

2017年度にむけて、毎週糖尿病教室も実施

この市民公開講座を実施したことで、糖尿病がかかわる疾患や生活への影響は多岐にわたるため、まだまだ伝えていかなければならない点が多く、たくさんの一般市民がこれらの情報を必要としていることを肌で感じる事ができました。2017年も、皆様からのご意見を聞きながらどのような内容の講座が良いかを考えていきたいと思います。

また当院では週に1度、患者さん、およびそのご家族に向けて糖尿病教室を行っています。また患者会もありますので外来受診の際にお気軽にお尋ねください。

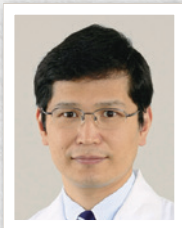


参加者からのメッセージをご紹介します

- ◆どのように人生の最後を迎えたいかもっと考えていきたいと今日参加して本当によかったと思う。
- ◆血糖測定を受けてみて高かったので今後値に注意したいと思う。
- ◆以前参加して大変よかったため今年も参加した。先生方のわかりやすい表現や説明は大変勉強になった。
- ◆鳥越氏のスピーチはご自身の体験を交えてわかりやすく、さすがニュースの職人だと思った。
- ◆鳥越さんが片足立ちされていた時に全くふらついていなかったことに驚いた。自分や周囲の人の体調管理を見直さなければならなかった。
- ◆毎回企画内容もよく参考になりありがとうございます。
- ◆コンパクトにまとめた講演の長さで良かった。事前予約不要なので友人も誘いやすく参加しやすかった。これからも続けてほしい。
- ◆講演資料がつかいやすくて良かった。メモ欄が特に良かった。
- ◆毎年同じ内容だとしても年1回改めて聞くことで意識が高まる。これからも続けてほしい。
- ◆下門先生の「一病息災」という言葉が耳に残った。
- ◆それぞれの先生方の話はとてもわかりよくてよかった。時間がとればもう少し長く話をしてほしい。
- ◆高齢者の糖尿病の新しい考え方に興味を持てた。
- ◆各講演の時間は20～25分ちょうどよかった。司会者の要約と進め方が上手だった。

新任科（部）長・センター長のご紹介

新たに就任した当院スタッフからのメッセージをご紹介します。



手術部 部長 内田 篤治郎 Tokujiro Uchida

安全でハイレベルな手術を提供いたします

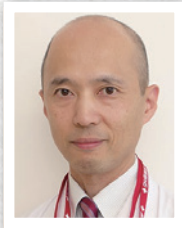
2016年10月より手術部長に就任いたしました。手術部には16室の手術室があり、全身麻酔症例・局所麻酔症例を合わせて年間8000例を超える手術が行われています。様々な診療科の手術が安全に行われ、患者さんに安心して手術を受けていただけるように日々努力しています。



集中治療部 部長 重光 秀信 Hidenobu Shigemitsu

世界標準に沿う最高の集中治療医療をめざします

2016年4月より着任いたしました。集中治療部は集中治療部専従医、関連各科医師、看護師、専従薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、栄養士、感染制御部専門看護師を含むエキスパートより構成されたチームで重症患者さんの治療を行う中央診療部門です。さらに多職種回診とMultidisciplinary方針でしっかりとコミュニケーションを取りながら患者様のケアに従事する事により、最終的には患者様一人一人に世界標準に沿う最高の集中治療医療を提供することを目的としております。



リハビリテーション部 部長・リハビリテーション科 科長 神野 哲也 Tetsuya Jinno

専門スタッフが早期回復をサポートします

2001年より当院整形外科で股関節外科を担当し、外来・手術などは現在も継続していますが、リハビリについては運動器リハビリテーションを中心にに関わり、2016年7月より就任しました。急性期病院のリハビリテーション部として、1日でも早く退院したい、よくなりたい、という患者さんのご希望に添えるよう、専門医の他、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といった専門職種が、入院後・手術後のできるだけ早期から、お手伝いをします。



材料部 部長・MEセンター センター長 田中 直文 Naofumi Tanaka

医療機器の安全性の向上と効率的な物流運営を目指します

2016年11月より材料部長・MEセンター長を拝命することになりました田中直文と申します。前職は手術部長を11年間担当しておりました。医療機器や医療材料という裏方的な業務ですが、平成26年に薬事法が“医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）”に大改訂され、医療機器・材料の取り扱いの質の向上が義務付けられるにともない、従来の臨床工学技士による機器の操作や、機器・材料管理に加え、院内の統括した安全性の提供が大きな課題に加わりました。手術部でも医療機器、材料、安全性は重要なファクターであり、これまで培った経験を活かし、病院のお役に立てればと考えております。



腎・膀胱・前立腺がん先端治療センター センター長・泌尿器科 科長

藤井 靖久 Yasuhisa Fujii

泌尿器疾患と泌尿器がんに対する先端医療を提供します

2016年8月に就任しました。泌尿器科では、前立腺、腎臓、膀胱、副腎、腎盂・尿管、精巣、尿道などの疾患について、最先端の優れた診療に務めています。腎・膀胱・前立腺がん先端治療センターでは、増え続ける前立腺がん、膀胱がん、腎臓がんという泌尿器科の3大がんに関連するスタッフがユニットを組んで患者さんに最適な先端医療を行います。



周産・女性診療科 科長 宮坂 尚幸 Naoyuki Miyasaka

女性の一生を支える高度で安心な医療をめざします

2016年8月に就任しました。周産・女性診療科は生殖内分泌（月経異常や不妊症など）、周産期（妊娠、出産など）、婦人科腫瘍（子宮腫瘍、卵巣腫瘍など）、女性ヘルスケア（更年期障害、骨粗鬆症など）と、女性の一生に幅広く関わる診療科です。当科ではそれぞれの分野のエキスパートが協力し合い、高度で安心な医療を提供するように心がけております。

TOPIC1

梅いち輪募金を活用してサービス改善しています

梅いち輪募金（東京医科歯科大学医学部附属病院支援基金）は、患者さんから寄せられたサービス改善の要望を実現するために平成27年に設立しました。初年度は319件のご寄附を頂戴し、集まったご寄附を活用して、次のような取り組みを行い、サービス改善を実現することができました。

平成27年度梅いち輪募金を活用した取り組み

医科A棟患者用トイレ改修
計算窓口誘導システム
採血業務アシストソリューション（採血台）
病院ボランティア用パッチ 等

特に会計のときに、計算窓口へお並びいただいていた長蛇の列を解消し、座ってお待ちいただくための、整理券の発券機を設置・導入したことで、大幅に並んでお待ちいただく時間が短くなりました。引き続き、病院をご利用される皆様へのサービス改善を、できるところから実現してまいります。



TOPIC2

患者さんアンケート結果について

当院では、患者さんのご協力を得て、施設や医療サービスに関するアンケートを実施しております。平成27年度の調査結果の中で、「知人等に当院を紹介や推薦したいと思われますか？」という質問があり、「推薦したい」と回答した人が、82.8%でした。

ご意見としては、「遠方から時間をかけて来ているが、全般的に非常によい病院」（80代・男性）、「貴院にかかれて命を拾いました」（40代・男性）、「長く通っておりますが、ロビーでコンサートがあったり、年に1度公開医療講座があったりと、とても有難く思っています」（60代・女性）、「非常に穏やかな接遇に感謝いたします」（40代・男性）、「計算窓口がシステム変わり良くなった。素晴らしい」（70代・男性）、「看護師さんが笑顔でやさしい」（30代・女性）などの声をいただいております。今後も引き続き、皆様が笑顔でご利用いただけるよう、上質な医療サービスを提供してまいります。



TOPIC3

病院ホームページをリニューアルしました！ <http://www.tmd.ac.jp/medhospital/>



1月23日より、病院ホームページをリニューアルしました。使いやすくなりましたので、ぜひご利用ください。

TOPIC3